

久宝寺遺跡発掘調査報告

—久宝寺緑地公園内雨水貯溜池築造工事に伴う発掘調査—

1986

財団法人 東大阪市文化財協会

は し が き

久宝寺緑地公園敷地は、近畿自動車道路建設工事に先立つ発掘調査などによって、久宝寺遺跡の範囲内に含まれることがすでに確認されています。八尾市下水道部河川課では、このたび、治水事業の一環として貯溜池を久宝寺緑地内に築造することになりました。

今回報告します久宝寺遺跡発掘調査は、この貯溜池築造工事に伴うものであります。本調査では、弥生時代から古墳時代までの遺構・遺物を確認し、久宝寺遺跡の従来からの資料にさらに新たな資料を加えたことになり、久宝寺遺跡の全体像に一步近づいたことになろうかと思えます。今後は、現在までの本遺跡の資料を総合的に検討し、河内平野部での当時の社会の全体像をも解明するために、さらに努力する必要性を痛感致しております。今回の報告が、その一助となれば幸いです。

最後に調査の実施にあたっては、大阪府中部公園事務所・八尾市下水道部・八尾市教育委員会・株式会社大一建設の方々にも多大な御協力を受けた他、調査に従事された関係諸氏に深く感謝の意を表する次第です。

昭和61年11月30日

財団法人 東大阪市文化財協会

理事長 木 寺 宏

例 言

1. 本書は、八尾市下水道部河川課の計画した久宝寺緑地公園内雨水貯溜池築造工事に伴う久宝寺遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、財団法人東大阪市文化財協会が八尾市下水道部河川課の委託を受けて、実施したものである。
3. 調査は、現場調査を昭和60年7月25日から9月10日まで実施し、以後昭和61年7月31日まで整理作業を行った。
4. 調査体制は以下の通りである。(調査時)

事務局長	寺澤 勝 (東大阪市教育委員会社会教育部参事)
庶務部長	吉田照博 (東大阪市教育委員会文化財課課長代理)
調査部長	原田 修 (東大阪市教育委員会文化財課主査)
庶務部員	安藤紀子 (東大阪市教育委員会文化財課)
調査部員	上野節子 (財団法人東大阪市文化財協会)
調査担当	中西克宏 (財団法人東大阪市文化財協会)
調査補助員	有山淳司、今井 建、江川義信、園田義明、高野由美子、木田圭子、樋口照子、吉岡美登里、為井通子、横田香織
5. 本書の執筆は中西がおこなった。また、遺物実測図の作成は高野、製図は本田・為井があった。
6. 現場での土色および土器の色調は、農林省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究色票監修の新版「標準土色帖」に準じており、記号の表示もそれに従った。
7. 現地での人骨の鑑定・取扱いについては、大阪市立大学解剖学教室多賀谷昭氏に御教示いただいた。明記して御礼申し上げます。
8. 木棺は、財団法人元興寺研究所に委託して保存処理を行うとともに、樹種鑑定を依頼した。同研究所の内田俊秀、松田隆綱氏にお世話になった。明記して御礼申し上げます。
9. 遺構写真は、現場担当者が撮影し、木棺の写真は、新生堂フォトに、土器の写真は、スタジオG、F.プロに委託して撮影をおこなった。
10. 調査の実施にあたっては、大阪府中部公園事務所の方々、株式会社大一新設の方々には大変お世話になった。厚く御礼申し上げます。

本文目次

はしがき

例言

1. 調査に至る経過	1
2. 位置と環境	2
3. 調査の概要	5
1) 調査の方法	5
2) 層位	6
3) 調査の成果	7
4. まとめ	21

挿図目次

第1図	調査地点位置図	1
第2図	遺跡位置図	3
第3図	調査地点平面図	5
第4図	北壁断面実測図	6
第5図	東壁断面実測図	6
第6図	古墳時代遺構実測図	8
第7図	方形周溝墓検出状況実測図	10
第8図	方形周溝墓全体図	11
第9図	木棺1実測図	12
第10図	木棺2検出状況実測図	14
第11図	木棺2実測図	15
第12図	木棺3実測図	16
第13図	土器棺実測図	17
第14図	弥生土器実測図	19
第15図	石鏡実測図	20

表目次

第1表	木棺材樹種一覧表	20
第2表	木棺一覧表	20

図版目次

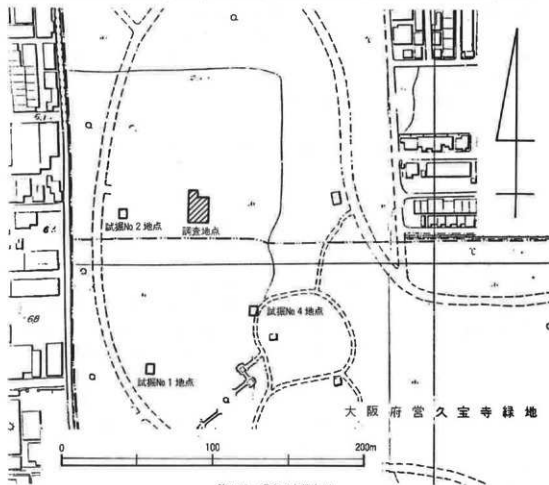
- | | | |
|------|--------|--|
| 図版一 | 遺構 | 1. 古墳時代遺構全景
2. 弥生時代方形周溝墓検出状況 |
| 図版二 | 弥生時代遺構 | 1. 西側周溝断面
2. 供獻土器出土状況
3. 供獻土器出土状況 |
| 図版三 | 弥生時代遺構 | 1. 方形周溝墓全景 (南より)
2. 方形周溝墓全景 (南西より) |
| 図版四 | 弥生時代遺構 | 1. 木棺1 検出状況 (東より)
2. 木棺1 検出状況 (蓋板除去後、南より) |
| 図版五 | 弥生時代遺構 | 1. 木棺1 底板検出状況 (南より)
2. 木棺1 墓壇立割状況 (東より) |
| 図版六 | 弥生時代遺構 | 1. 木棺2 検出状況 (西より)
2. 木棺2 検出状況 (蓋板除去後、西より) |
| 図版七 | 弥生時代遺構 | 1. 木棺2 人骨検出状況 (西より)
2. 木棺2 墓壇立割状況 (南より) |
| 図版八 | 弥生時代遺構 | 1. 木棺3 検出状況 (南より)
2. 土器棺検出状況 (南より) |
| 図版九 | 遺物 | 木棺1の展開 (内面) |
| 図版十 | 遺物 | 1. 木棺1 組み合わせ状況
2. 木棺1 組み合わせ状況 |
| 図版十一 | 遺物 | 1. 木棺1 組み合わせ部分 (東側)
2. 木棺1 組み合わせ部分 (西側) |
| 図版十二 | 遺物 | 1. 木棺1 底板挟り部分 (西側)
2. 木棺1 底板挟り部分 (西側) |
| 図版十三 | 遺物 | 木棺2の展開 (内面) |
| 図版十四 | 遺物 | 1. 木棺2 組み合わせ部分 (南側)
2. 木棺2 底板挟り部分 (南側) |
| 図版十五 | 遺物 | 1. 木棺2 底板挟り部分 (北側)
2. 木棺3の展開 (内面) |
| 図版十六 | 遺物 | 1. 古墳時代出土土器
2. 弥生時代出土土器 |
| 図版十七 | 遺物 | 弥生時代出土遺物 |
| 図版十八 | 遺物 | 木棺樹種顕微鏡写真 |

1. 調査に至る経過

久宝寺遺跡は、八尾市西久宝寺を中心に東西約500m・南北約1.5kmと推定される縄文時代から平安時代にまたがる複合遺跡である。

当遺跡の発掘調査は、昭和56年度から近畿自動車道路建設に伴って実施されており、現在までに縄文時代晩期の杵跡を残す土器片、弥生時代の方形周溝墓、古墳時代前期の竪穴住居・掘立柱建物・水田・榑構造船、古墳時代中期頃の多量の韓式系土器、平安時代の掘立柱建物群など多数の遺構・遺物を検出している。

昭和60年度、八尾市下水道部河川課は、本遺跡の範囲内と周知されている久宝寺緑地公園内に神武川雨水貯留池の建設を計画した。建設工事に先立って八尾市教育委員会が予定地内の4ヶ所（No. 1～No. 4地点）で試掘調査を実施したところ、1ヶ所（No. 3地点）から木棺と推定できる加工木を検出した。後日、当該地は、行政区画上では東大阪市大運南久宝寺緑地公園



第1図 調査地点位置図

内にあたる事が判明した。そのため、試掘調査結果をうけた協議は、八尾市下水道部河川課・東大阪市下水道部・大阪府教育委員会・八尾市教育委員会・東大阪市教育委員会の5者間でなされた。協議の結果、当該地の発掘調査・記録保存する必要性を認め、八尾市下水道部河川課の委託を受けた財団法人東大阪市文化財協会が、昭和60年7月25日から昭和60年9月10日まで現場作業を行い、以後昭和61年7月31日まで整理作業を行った。

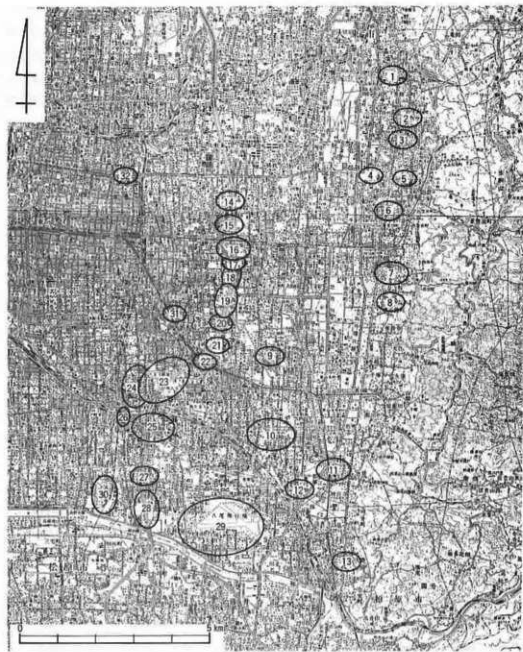
2. 位置と環境

久宝寺遺跡は、東の生駒山地、西の上町台地、南の羽曳野丘陵に囲まれた河内平野の中央部に位置する。河内平野は、旧大和川の分流である平野川・長瀬川・玉串川などが貫流し、これら諸河川の形成した三角州性低地・自然堤防・潟湖性低地や扇状地などから成り立っている。本遺跡は、長瀬川と平野川の形成した自然堤防に挟まれた三角州性低地上の標高6m前後に立地し、八尾市西久宝寺を中心に南北約1.5km・東西約500mの範囲にひろがる縄文時代から平安時代におよぶ複合遺跡である。当遺跡周辺に所在する諸遺跡は、各時代の河内平野の地形的な環境変化とともに様々な変遷をたどる。以下、時代ごとに河内平野とその周辺に立地する遺跡の変遷を中心に記述する。

旧石器時代の遺物は、平野部の東大阪市若江北遺跡や生駒山西麓部の東大阪市草香山遺跡・千手山遺跡・正興寺山遺跡などで出土しているのみである。近年、羽曳野丘陵から北へのびる低位段丘面上に立地するはさみ山遺跡で、竪穴住居址と考えられる遺構が検出されている。

縄文時代早期から中期頃には、河内平野全域は、海進現象にともなって海水が浸入し河内湾を形成する。早期では、生駒山西麓部に位置する交野市神宮寺遺跡、柏原市大泉遺跡のほか東大阪市神並遺跡から、多量の土器をはじめ、土偶・有舌尖頭器・石織などが出土している。前・中期の遺跡としては、交野市星田遺跡、東大阪市縄手遺跡、八尾市恩智遺跡などがある。また、鬼虎川遺跡では、近年の調査で当時の海岸線の一部を確認している。

縄文時代後晩期には、海退現象や淀川の堆積作用によって上町台地の北側先端部が狭くなったため、海水の浸入が妨げられ、河内湾は淡水の潟に変化する。後期の遺跡には、生駒山西麓部に四条堰市岡山遺跡、東大阪市日下遺跡・芝ヶ丘遺跡・縄手遺跡・馬場川遺跡、八尾市恩智遺跡などが点在する。このうち縄手遺跡では、11軒の竪穴住居や石組遺構などが検出されている。また、上町台地上では貝塚を伴う大阪市森の宮遺跡⁽¹⁶⁾があげられる。晩期の遺跡は、平野部の新家遺跡⁽¹⁷⁾・山賀遺跡⁽¹⁸⁾・美園遺跡⁽¹⁹⁾・長原遺跡⁽¹⁰⁾などでも遺物を多量に含む良好な状態の包含層を検出している。生駒山西麓部には、山麓に発達した扇状地上に東大阪市日下遺跡・芝ヶ丘遺跡・鬼塚遺跡・馬場川遺跡、柏原市大泉遺跡などが存在する。これらの遺跡のうちには、晩期末頃の長原式土器と弥生時代前期の土器とを伴出し、河内における縄文時代から弥生時代への移行過程を考えるうえで重要な資料を提供しているものもある。



- | | | | |
|------------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 中垣内遺跡 | 2. 日下遺跡 | 3. 芝ヶ丘遺跡 | 4. 鬼虎川遺跡 |
| 5. 神並遺跡 | 6. 鬼塚遺跡 | 7. 繩手遺跡 | 8. 馬場川遺跡 |
| 9. 笠振遺跡 | 10. 中田遺跡 | 11. 忍智遺跡 | 12. 東弓削遺跡 |
| 13. 大隈遺跡 | 14. 新家遺跡 | 15. 西岩田遺跡 | 16. 瓜生堂遺跡 |
| 17. 巨摩麻寺遺跡 | 18. 若江北遺跡 | 19. 山賀遺跡 | 20. 友井東遺跡 |
| 21. 美園遺跡 | 22. 佐堂遺跡 | 23. 久宝寺遺跡 | 24. 加美遺跡 |
| 25. 亀井遺跡 | 26. 鞍作庵寺 | 27. 城山遺跡 | 28. 長原遺跡 |
| 29. 八尾南遺跡 | 30. 瓜破遺跡 | 31. 芥刀遺跡 | 32. 高井田遺跡 |

第2圖 遺跡位置圖

弥生時代前期には、縄文時代後晩期以来の海退現象や河川からの堆積作用が進む。このため河内湖は湖になる。河内湖周辺には、初期水稲耕作に適した低湿地が広がり、多くの集落が営まれる。河内湖周辺では、掘立柱建物跡・井戸などを検出した山賀遺跡、14棟の竪穴住居址および、掘立柱建物4棟を確認した美園遺跡、水田址を検出している若江北遺跡⁽¹¹⁾・友井東遺跡⁽¹²⁾などがある。また、生駒山西麓部の中垣内遺跡・鬼虎川遺跡・鬼塚遺跡などでも新たな生活を開始したようである。

弥生時代中期になると諸河川の堆積作用がさらに進行するため、肥沃な土壌が形成される。このような条件を背景に、中期には、前期の集落を基盤として大集落に発展する。本遺跡の北約4kmに位置する東大阪市瓜生堂遺跡⁽¹³⁾・山賀遺跡⁽¹⁴⁾・巨摩廃寺遺跡⁽¹⁴⁾などでは、複数の組み合わせ式木棺や土器棺を埋葬主体部とする方形周溝墓群・竪穴住居址・掘立柱建物跡・井戸・水田址などの遺構とともに、多量の土器・石器・木製品をはじめ、大阪湾型銅戈・石製鉤型なども出土している。また、当遺跡の南に立地する亀井遺跡⁽¹⁵⁾・加美遺跡⁽¹⁶⁾でも方形周溝墓などが検出されている。加美遺跡の方形周溝墓は、南北22m、東西11mの大規模なマウンドに13基以上の埋葬主体部をもつもので、瓜生堂遺跡の2号方形周溝墓の規模をはるかに上回るものである。一方、生駒山西麓部の東大阪市鬼虎川遺跡・西ノ辻遺跡⁽¹⁷⁾・八尾市恩智遺跡⁽¹⁷⁾などでは、方形周溝墓・掘立柱建物・大溝に平行する櫛列が近年の調査で確認されており、前述した河内平野部の諸遺跡と同様に進展する。

弥生時代中期末から後期には、平野部の諸遺跡で幾度も河川の氾濫を確認しており、不安定な自然環境となる。現在までのところ巨摩廃寺遺跡・若江北遺跡で方形周溝墓や水田址が認められる程度で、弥生時代中期に発達した諸遺跡は、小規模化したり他所へ移動したものと考えられる。

古墳時代になると自然環境が安定化したため、再び多くの集落や古墳などが検出されている。前期には、加美遺跡・美園遺跡などで竪穴住居址や掘立柱建物が検出されている。水田址は、巨摩廃寺遺跡・若江北遺跡・美園遺跡などで確認されている。墓址としては、加美遺跡で小型仿製鏡や鉛載鏡片を伴う方形周溝墓を46基以上検出している。また、八尾南遺跡⁽¹⁸⁾・美園遺跡⁽¹⁸⁾では、従来、河内平野部ではまったく確認されていなかった古墳も認められる。中期後半頃には、さらに遺跡数が増える。八尾南遺跡・長原遺跡⁽¹⁹⁾などでは、掘立柱建物・井戸・土坑などの遺構群とともに韓式系土器など、新たな遺物も出土している。これらの集落のうちには古墳時代後期以降に連続せず、一時断絶するものもかなりみられる。このような中で、巨摩廃寺遺跡では、後期の運輪を伴う一辺15mの方墳なども検出されており、今後、古墳時代後期の集落の居住地の発見が待たれる。

律令制下の奈良時代には、河内国決川郡に属し、本遺跡周辺においても鞍作廃寺・瓜破廃寺などの寺院も創建される。

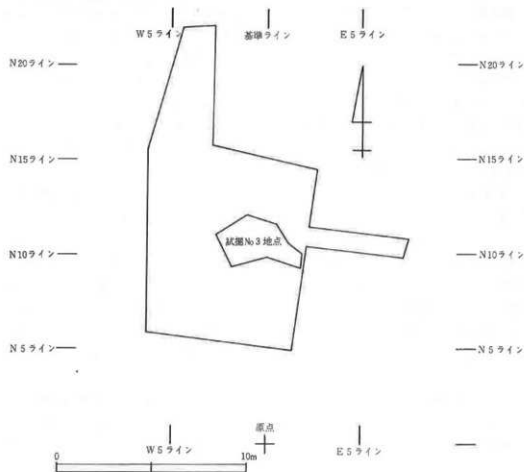
中世には、蓮如の布教活動を契機として西証寺ができ、河内門徒衆の拠点となった。また、天文年間には寺内町を形成した⁽¹⁹⁾。

3. 調査の概要

1) 調査の方法 (第3図)

本調査は、試掘調査によって木棺を確認しているNo. 3地点を中心に、東西15m・南北15mの225m²を対象範囲として実施した。地区割りは、まず調査地区南側に原点 (X=-151.97293、Y=-38.66269) を設定し、次に磁北に沿う南北方向の基準ラインと、これに直交する東西方向の基準ラインを設け、5mメッシュで区画することにした。遺構図面の基準ラインは、この地区割りに従っている。

第1層から第5層の除去には機械を使用し、以下の層位は人力掘削によって調査を行った。第8層下面で弥生時代中期の方形周溝墓のマウンドを部分的に検出したため、調査範囲を北側および東側に拡張して方形周溝墓のマウンドの規模の確認に務めた。



第3図 調査地点平面図

尚、貯溜池築造工事は、方形周溝墓のマウンド上面にまで及ばず、発掘調査後も当方形周溝墓を保存することが可能であったため、マウンドの立ち割りは、調査地区北壁と東壁沿いの2ヶ所でのみ実施した。現地での調査終了時点では、マウンド全体を養生シートで覆い、さらにその上に真砂土を約20cm敷き、工事の影響を最小限にとどめた。

2) 層位 (第4図・第5図)

第1層は、久宝寺緑地公園造成時の盛土で約1.7mある。第2層から第4層は、緑地造成前の耕土である。

第5層は、にぶい黄色(2.5Y6/3)砂層である。調査地区全域で検出され、中央付近から西側に向かって層厚を増している。調査区北東隅部分で局部的に灰色(5Y4/1)シルト層を含む。第5層上面では、古墳時代後期頃の土壌を2基確認している。この層位からは、古墳時代中期末から後期初頭頃の須恵器・土師器のほか、著しく磨滅した弥生土器などが出土している。

第6層は、オリーブ黒色(10Y3/1)粘土層で、植物遺体を少量含む。調査区北東隅部分を除き全域に認められる。層厚約10cmを測り、ほぼ水平堆積する。第6層上面では、調査区全域で足跡を検出している。本層位には、少量の古墳時代前期頃の土師器や弥生土器を含む。

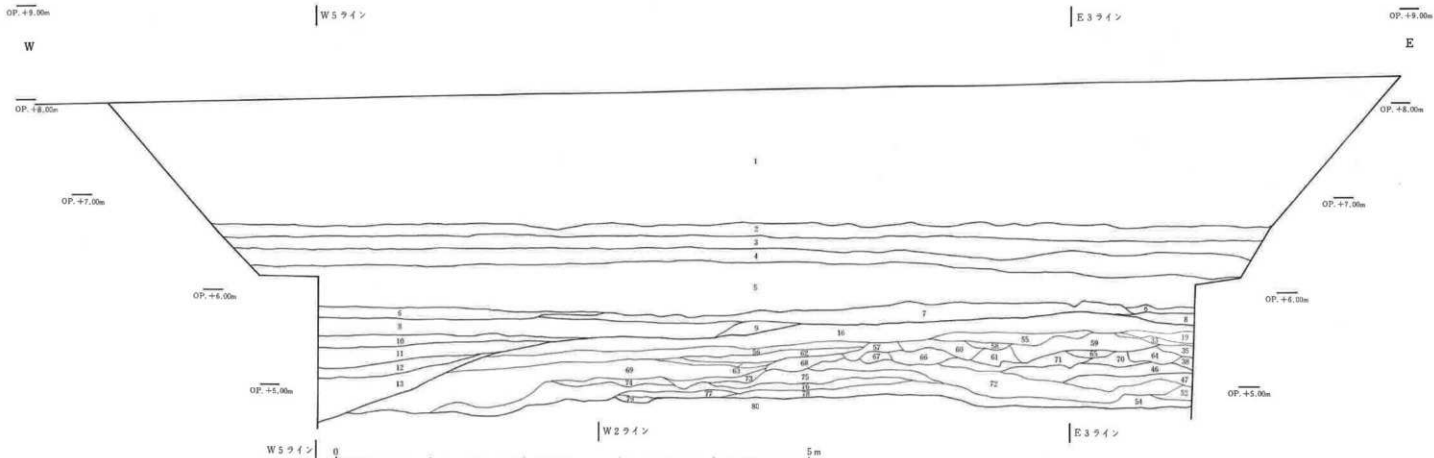
第7層は、オリーブ黒色(5Y3/1)砂質シルト層で、調査区中央から北東隅寄りで見出された。第7層は、下層にあたる方形周溝墓のマウンド頂部上面に局部的に認められることや、土色・土質から方形周溝墓のマウンド頂部における盛土の流出土と考えられる。

第8層は、暗緑灰色(10GY4/1)粘土層で微量の弥生土器を含む。層厚約20cmで、ほぼ水平堆積し、方形周溝墓全体を覆う層である。

第10層から第15層は、方形周溝墓の周溝内からマウンド斜面にかけて、レンズ状に堆積した土層である。第10層は、オリーブ黒色(5Y3/1)砂質シルト層で層厚10cmを測る。土質などからみて第7層と同様に方形周溝墓の盛土の流出土と考えられる。主に方形周溝墓の西側斜面に存在し、西側に向かって層厚を増している。第12層は、暗緑灰色(7.5GY4/1)シルト質粘土層で、部分的に暗オリーブ灰色(5GY4/1)を含む。方形周溝墓の西側斜面・南側斜面で見出している。第13層は、暗オリーブ灰色(5GY4/1)シルト質粘土層で、マウンド斜面から周溝内の最下層に堆積する。本層位からは、方形周溝墓に伴う弥生時代中期の供献土器2点を含む少量の遺物を検出している。第14層は、暗緑灰色(5GY4/1)シルト質粘土層で、マウンド南側斜面の東寄りでのみ認められる。第15層は、オリーブ黒色(5Y3/1)砂質シルト層でマウンド南側斜面に存在する。本層位は、第7・10層と同質であることから方形周溝墓の盛土の流出土と考えられ、確認された盛土の流出土のうちで最も早い段階で流出したものである。

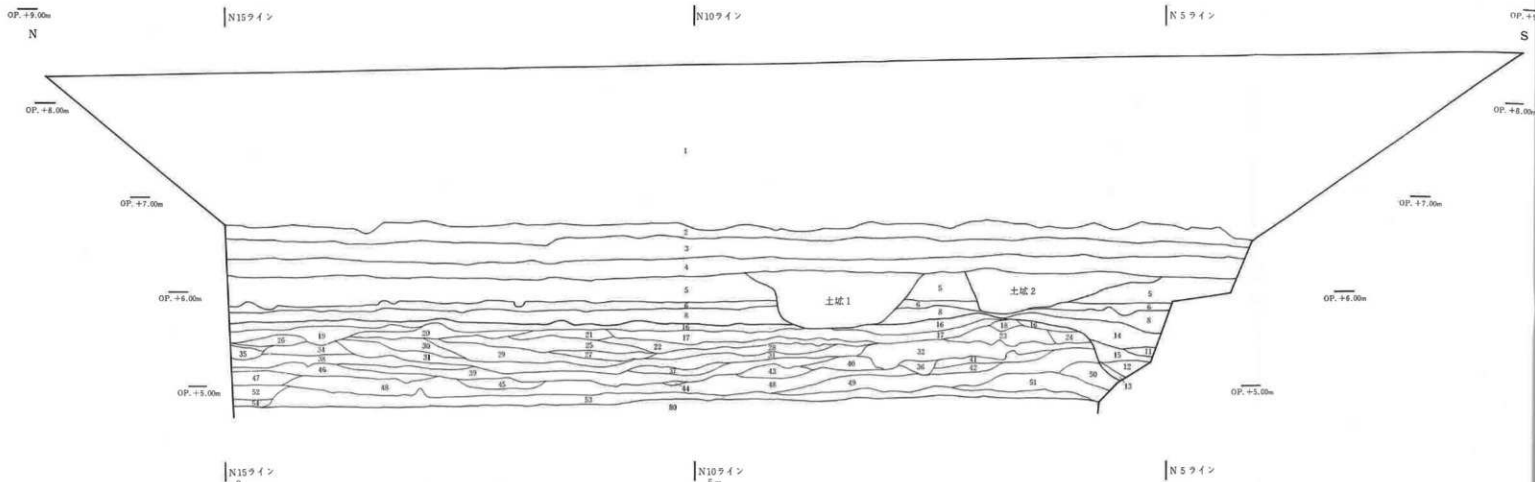
第16層から第79層は、方形周溝墓の盛土層で約80cmある。盛土の土質は、後述するように三大別できる。盛土内には、少量の弥生時代中期の土器片・石製品などを含む。

第80層は、暗緑灰色(7.5GY4/1)砂層で方形周溝墓の築造ベース面をなす。調査区北西隅



- | | | | | | |
|--|---|---|---|--|---|
| 1. 硬土 | 2. 灰色 (7.5Y) 粘質シルト、細砂から中粒砂少量 | 3. 灰色 (10Y) シルト、細砂から2mm次の顆粒少量 | 4. 灰色 (10Y) シルト | 5. 濃い灰色 (2.5Y) 砂、灰色シルト (5Y) を含 | 6. オリーブ褐色 (10Y) 粘土 |
| 7. オリーブ褐色 (5Y) 砂質シルト、1~3mm次の顆粒多し | 8. 暗緑灰色 (10GY) 粘土、細砂少量 | 9. オリーブ褐色 (5Y) 砂質シルト、細砂から3mm次の顆粒多し | 10. オリーブ褐色 (5Y) 砂質シルト、細砂から2mm次の顆粒多し | 11. 暗緑灰色 (10GY) 粘質シルト | 12. 暗緑灰色 (7.5GY) シルト質粘土、暗オリーブ褐色 (5GY) シルトを含む |
| 13. 暗オリーブ褐色 (5GY) シルト質粘土 | 14. 暗緑灰色 (5GY) シルト質粘土 | 15. オリーブ褐色 (5Y) 砂質シルト、細砂から3mm次の顆粒多し | 16. オリーブ褐色 (5Y) 砂まじりシルト、細砂から2mm次の顆粒多し | 17. 灰オリーブ色 (5Y) 砂まじりシルト、細砂から5mm次の顆粒多し | 18. オリーブ褐色 (5Y) 砂まじりシルト、3mm次の顆粒少量 |
| 19. オリーブ褐色 (5Y) 砂まじりシルト、中から細粒砂多し | 20. 灰オリーブ色 (5Y) 砂まじりシルト、暗オリーブ褐色 (5Y) 粘土のフロック少量 | 21. 灰オリーブ色 (5Y) 砂まじりシルト | 22. オリーブ褐色 (10Y) 砂まじりシルト、粗粒砂多し | 23. オリーブ褐色 (2.5Y) 砂質シルト、細砂から3mm次の顆粒少量 | 24. 灰色 (5Y) 砂まじりシルト、細砂から1mm次の顆粒多し |
| 25. オリーブ褐色 (5Y) 砂まじりシルト、中から細粒砂多し | 26. 灰色 (7.5Y) 砂まじりシルト、3~5mm次の顆粒少量 | 27. 灰オリーブ色 (5Y) 砂まじりシルト、暗緑灰色 (5GY) 粘質シルトのフロック多し | 28. 灰オリーブ色 (5Y) 砂まじりシルト、暗緑灰色 (10GY) シルト質粘土のフロック少量 | 29. 暗緑灰色 (2.5Y) 砂まじりシルト、暗緑灰色 (5GY) シルト質粘土のフロック多し | 30. 灰色 (10Y) 砂まじりシルト、細砂から中粒砂多し |
| 31. オリーブ褐色 (5Y) 砂まじりシルト、暗緑灰色 (5Y) 粘土のフロック少量 | 32. 灰色 (7.5Y) 砂まじりシルト、暗緑灰色 (5GY) 粘質シルトのフロック少量 | 33. オリーブ褐色 (2.5Y) 砂質シルト、暗緑灰色 (10GY) シルト質粘土のフロック少量 | 34. オリーブ褐色 (2.5Y) 砂質シルト、暗緑灰色 (10GY) シルト質粘土のフロック少量 | 35. オリーブ褐色 (2.5Y) 砂まじりシルト、暗緑灰色 (5GY) シルト質粘土のフロック少量 | 36. 灰色 (7.5Y) 砂まじりシルト、暗緑灰色 (5GY) 粘質シルトのフロック多し |
| 37. オリーブ褐色 (10Y) 粘質シルト、暗オリーブ褐色 (5Y) 砂まじりシルト少量 | 38. 暗緑灰色 (2.5Y) 砂まじりシルト、暗緑灰色 (10GY) シルト質粘土のフロック多し | 39. 灰色 (10Y) 粘質シルト、細砂から1mm次の顆粒多し | 40. 灰オリーブ色 (5Y) 砂まじりシルト、暗緑灰色 (10GY) シルト質粘土のフロック多し | 41. 暗褐色 (2.5Y) 砂質シルト、暗緑灰色 (5GY) 粘質シルトのフロック少量 | 42. 暗緑灰色 (2.5Y) 砂まじりシルト、暗緑灰色 (5GY) 粘質シルトのフロック少量 |
| 43. 灰オリーブ色 (5Y) 砂まじりシルト、暗緑灰色 (10GY) 粘質シルトのフロック少量 | 44. 灰色 (7.5Y) シルト質粘土 | 45. 暗緑灰色 (10GY) 砂まじりシルト、粗粒砂少量 | 46. オリーブ褐色 (2.5Y) 砂まじりシルト、暗緑灰色 (10GY) シルト質粘土のフロック多し | 47. 暗緑灰色 (10GY) 砂まじりシルト、オリーブ褐色 (10Y) シルト質粘土のフロック多し | 48. 暗緑灰色 (10GY) 砂まじりシルト、1~3mm次の顆粒多し |
| 49. 暗緑灰色 (10GY) 砂まじりシルト、暗緑灰色 (5GY) 粘質シルトのフロック多し | 50. オリーブ褐色 (5Y) 砂まじりシルト、中粒砂から粗粒砂多し | 51. 灰色 (7.5Y) 砂まじりシルト、オリーブ褐色 (10Y) シルト質粘土のフロック多し | 52. 暗緑灰色 (5Y) 砂質シルト、中粒砂から粗粒砂多し | 53. オリーブ褐色 (10Y) シルト質粘土、粗粒砂から1mm次の顆粒多し | 54. オリーブ褐色 (7.5Y) シルト質粘土、細砂から粗粒砂少量を含む |
| 55. オリーブ褐色 (2.5Y) 砂質シルト、オリーブ褐色 (5Y) 砂質シルト、中粒砂から粗粒砂多し | 56. オリーブ褐色 (5Y) 砂質シルト、粗粒砂多し | 57. オリーブ褐色 (5Y) 砂質シルト、中粒砂から粗粒砂多し | 58. 灰オリーブ色 (7.5Y) 砂質シルト、中粒砂から粗粒砂多し | 59. オリーブ褐色 (2.5Y) 砂まじりシルト、灰色 (5Y) 砂質シルトのフロック多し | 60. 灰色 (10Y) 砂質シルト、細砂から中粒砂多し |
| 61. オリーブ褐色 (2.5Y) 砂まじりシルト、細砂から中粒砂多し | 62. オリーブ褐色 (7.5Y) 砂質シルト、暗緑灰色 (5GY) シルト質粘土のフロック少量 | 63. オリーブ褐色 (7.5Y) 砂質シルト | 64. 暗緑灰色 (5GY) シルト質粘土、暗緑灰色 (5GY) 粘質シルトのフロック少量 | 65. オリーブ褐色 (10Y) 砂質シルト、中粒砂から2mm次の顆粒多し | 66. オリーブ褐色 (5Y) 砂質シルト、1~3mm次の顆粒少量を含む |
| 67. オリーブ褐色 (7.5Y) 砂まじりシルト、細砂から2mm次の顆粒多し | 68. オリーブ褐色 (5Y) 砂質シルト、暗緑灰色 (5GY) シルト質粘土のフロック少量 | 69. オリーブ褐色 (10Y) 砂質シルト、灰を少量含む | 70. オリーブ褐色 (2.5Y) 砂まじりシルト、細砂から中粒砂多し | 71. オリーブ褐色 (2.5Y) 砂質シルト、暗緑灰色 (10GY) シルト質粘土のフロック少量 | 72. オリーブ褐色 (10Y) シルト質粘土、暗オリーブ褐色 (5Y) 砂質シルトのフロック少量 |
| 73. オリーブ褐色 (10Y) 砂質シルト、暗オリーブ褐色 (5Y) 砂質シルトのフロック少量 | 74. オリーブ褐色 (7.5Y) 粘土、1mm次の顆粒少量 | 75. 灰色 (10Y) シルト質粘土、粗粒砂から1mm次の顆粒少量 | 76. オリーブ褐色 (7.5Y) 粘土 | 77. オリーブ褐色 (5Y) 粘土、1mm次の顆粒少量 | 78. オリーブ褐色 (2.5Y) シルト質粘土、細砂から粗粒砂少量を含む |
| 79. 灰オリーブ色 (2.5Y) シルト質粘土 | 80. 暗緑灰色 (7.5GY) 砂 | | | | |

第4図 北壁断面実測図



- | | | | | | |
|--|--|--|--|--|---|
| 1. 腐土 | 2. 灰色 (7.5YX) 粘質シルト、細砂から中粒砂少量 | 3. 灰色 (10YX) シルト、細砂から2mm次の細砂少量 | 4. 灰色 (10YX) シルト | 5. 濃い灰色 (2.5YX) 粘、灰色シルト (5YX) を含 | 6. オリーブ褐色 (10YX) 粘土 |
| 7. オリーブ褐色 (5YX) 砂質シルト、1~2mm次の細砂多し | 8. 暗緑灰色 (10GYX) 粘土、細砂極少量 | 9. オリーブ褐色 (5YX) 砂質シルト、細砂から2mm次の細砂多し | 10. オリーブ褐色 (5YX) 砂質シルト、細砂から2mm次の細砂多し | 11. 暗緑灰色 (10GYX) 粘質シルト | 12. 暗緑灰色 (7.5GYX) シルト質粘土、暗オリーブ褐色 (5GYX) シルトを含む |
| 13. 暗オリーブ褐色 (5GYX) シルト質粘土 | 14. 暗緑灰色 (5GY) シルト質粘土 | 15. オリーブ褐色 (5YX) 砂質シルト、細砂から3mm次の細砂多し | 16. オリーブ褐色 (5YX) 砂質シルト、細砂から2mm次の細砂多し | 17. 灰オリーブ色 (2.5YX) 砂まじりシルト、細砂から5mm次の細砂多し | 18. オリーブ褐色 (5YX) 砂まじりシルト、3mm次の細砂少量 |
| 19. オリーブ褐色 (5YX) 砂まじりシルト、細砂から中粒砂多し | 20. 灰色 (7.5YX) 砂まじりシルト、中から粗粒砂多し | 21. 灰オリーブ色 (5YX) 砂まじりシルト | 22. オリーブ褐色 (10YX) 砂まじりシルト、粗粒砂多し | 23. オリーブ褐色 (2.5YX) 砂質シルト、細砂から5mm次の細砂多し | 24. 灰色 (5YX) 砂まじりシルト、細砂から1mm次の細砂多し |
| 25. オリーブ褐色 (5YX) 砂まじりシルト、中から粗粒砂多し | 26. 灰色 (7.5YX) 砂まじりシルト、3~5mm次の細砂少量 | 27. 灰オリーブ色 (5YX) 砂まじりシルト、暗緑灰色 (5GY) 粘質シルトのブロック多し | 28. 灰オリーブ色 (5YX) 砂まじりシルト、細砂から中粒砂多し | 29. 暗灰色 (2.5YX) 砂まじりシルト、暗緑灰色 (5GY) シルト質粘土のブロック多し | 30. 灰色 (10YX) 砂まじりシルト、細砂から中粒砂多し |
| 31. オリーブ褐色 (2.5YX) 砂まじりシルト、暗緑灰色 (5YX) 粘土のブロック多し | 32. 暗灰色 (2.5YX) 粘質シルト、暗緑灰色 (5GY) 粘質シルトのブロック少量 | 33. オリーブ褐色 (2.5YX) 砂質シルト、暗緑灰色 (10GY) シルト質粘土のブロック多し | 34. オリーブ褐色 (2.5YX) 砂まじりシルト、粗粒砂多し | 35. オリーブ褐色 (2.5YX) 砂まじりシルト、暗緑灰色 (5GY) 粘質シルトのブロック多し | 36. 灰色 (7.5YX) 砂まじりシルト、暗緑灰色 (5GY) 粘質シルトのブロック少量 |
| 37. オリーブ褐色 (10YX) 粘質シルト、灰オリーブ色 (5YX) 砂まじりシルト少量 | 38. 暗灰色 (2.5YX) 砂まじりシルト、暗緑灰色 (10GYX) シルト質粘土のブロック多し | 39. 灰色 (10YX) 粘質シルト、細砂から1mm次の細砂多し | 40. 灰オリーブ色 (2.5YX) 砂まじりシルト、暗緑灰色 (10GYX) 粘質シルトのブロック少量 | 41. 暗緑灰色 (10GYX) 砂まじりシルト、暗緑灰色 (5GY) 粘質シルトのブロック多し | 42. 暗灰色 (2.5YX) 粘質シルト、暗緑灰色 (5GY) 粘質シルトのブロック少量 |
| 43. 灰オリーブ色 (5YX) 砂まじりシルト、暗緑灰色 (10GYX) 粘質シルトのブロック少量 | 44. 灰色 (7.5YX) シルト質粘土 | 45. 暗緑灰色 (10GYX) 砂まじりシルト、粗粒砂少量 | 46. オリーブ褐色 (10YX) 砂まじりシルト、暗緑灰色 (10GYX) シルト質粘土のブロック多し | 47. 暗緑灰色 (10GYX) 砂まじりシルト、オリーブ褐色 (10YX) シルト質粘土のブロック多し | 48. 暗緑灰色 (10GYX) 砂まじりシルト、1~3mm次の細砂少量 |
| 49. 暗緑灰色 (10GYX) 砂まじりシルト、暗緑灰色 (5GY) 粘質シルトのブロック多し | 50. オリーブ褐色 (5YX) 砂まじりシルト、中粒砂から粗粒砂多し | 51. 灰色 (7.5YX) 砂まじりシルト、オリーブ褐色 (10YX) シルト質粘土のブロック多し | 52. 暗灰色 (2.5YX) 砂まじりシルト、1~3mm次の細砂多し | 53. オリーブ褐色 (10YX) シルト質粘土、細砂から1mm次の細砂多し | 54. オリーブ褐色 (7.5YX) シルト質粘土、細砂から粗粒砂少量 |
| 55. オリーブ褐色 (2.5YX) 砂質シルト、オリーブ褐色 (5YX) 砂質シルトのブロック多し | 56. オリーブ褐色 (5YX) 砂質シルト、粗粒砂多し | 57. オリーブ褐色 (5YX) 砂質シルト、中粒砂から粗粒砂多し | 58. 暗オリーブ色 (7.5YX) 砂質シルト、暗緑灰色 (5GY) 粘質シルトのブロック多し | 59. オリーブ褐色 (2.5YX) 砂質シルト、中粒砂から粗粒砂多し | 60. 灰色 (10YX) 砂まじりシルト、細砂から粗粒砂多し |
| 61. オリーブ褐色 (5YX) 砂まじりシルト、細砂から中粒砂多し | 62. オリーブ褐色 (7.5YX) 砂質シルト、粗粒砂少量 | 63. オリーブ褐色 (7.5YX) 砂質シルト | 64. 暗緑灰色 (5GY) シルト質粘土、暗緑灰色 (5GY) 粘質シルトのブロック多し | 65. オリーブ褐色 (10YX) 砂質シルト、中粒砂から2mm次の細砂多し | 66. オリーブ褐色 (5YX) 砂質シルト、1~2mm次の細砂少量 |
| 67. オリーブ褐色 (7.5YX) 砂まじりシルト、細砂から2mm次の細砂少量 | 68. オリーブ褐色 (5YX) 砂質シルト、暗緑灰色 (5GY) シルト質粘土のブロック多し | 69. オリーブ褐色 (10YX) 粘質シルト、黄を少量含 | 70. オリーブ褐色 (2.5YX) 砂まじりシルト、細砂から中粒砂多し | 71. オリーブ褐色 (2.5YX) 砂質シルト、暗緑灰色 (10GYX) シルト質粘土のブロック多し | 72. オリーブ褐色 (2.5YX) 砂質シルト、暗緑灰色 (10GYX) シルト質粘土のブロック多し |
| 73. オリーブ褐色 (10YX) 砂質シルト、オリーブ褐色 (10YX) 砂質シルトのブロック多し | 74. オリーブ褐色 (7.5YX) 粘土、1mm次の細砂少量 | 75. 灰色 (10YX) シルト質粘土、細砂から1mm次の細砂少量 | 76. オリーブ褐色 (2.5YX) 粘土 | 77. オリーブ褐色 (5YX) 粘土、1mm次の細砂少量 | 78. オリーブ褐色 (5GYX) シルト質粘土、細砂から粗粒砂少量 |

第5図 東盤断面調査図

で部分的に確認した木層位の厚さは、約1mを測る。遺物・遺構は、全く認められなかった。

3) 調査の成果

調査地区内で検出した遺構には、古墳時代の土埴2基・足跡、弥生時代中期の方形周溝墓1基がある。また、出土遺物には、古墳時代の須恵器・土師器、弥生時代中期の土器・石器・木棺などが認められる。土器は、方形周溝墓に伴う土器棺と供献土器2点以外いずれも小破片である。石器には、方形周溝墓の盛土層から出土した叩石1点と木棺内より検出された石鏃2点などがある。

古墳時代の遺構 (第6図、図版一)

古墳時代の遺構は、機械掘削後の第6層上面で足跡・土埴2基を確認している。

土埴2基は、調査区南東隅部分に約0.8m離れて位置し、東壁断面に接する。調査地区東壁断面の精査の結果、土埴2基は、いずれも検出面より一層上層の第5層上面(OP.+6.2m前後)から切り込んでいることが判明した。

土埴1は、平面方形、断面逆台形を呈し、南北長約1.3m・東西長0.6m以上、深さ0.6mの規模を測る。埋土は、上下2層に分層できる。下層は、オリブ黄色(5Y6/3)シルトと暗緑灰色(5G4/2)シルト質粘土の互層である。上層の堆積層は、黄褐色(5GY4/1)シルトである。埋土内からは少量の須恵器・土師器が出土した。

土埴2は、検出面で南北長1.8m・東西長0.95m、深さ0.45mを測り、平面隅丸方形、断面V字形を呈する。埋土は、灰色(7.5GY3/1)砂まじりシルトの単一層である。出土遺物は、土師器・弥生土器片を微量確認したのみである。

足跡は、OP.+5.9m前後の第6層上面で、調査区全域から検出されている。特に調査区南西部では、足跡が複雑に重複し、高密度である。一定の歩行痕跡などについては、把握できなかった。規模・形態などの特徴からみて、動物は少なく人間を中心とする。足跡内には、検出面上層のぶい黄色(2.5Y6/3)砂が堆積している。10cm程度踏み込まれたものが多い。

古墳時代の遺物 (図版十六 1)

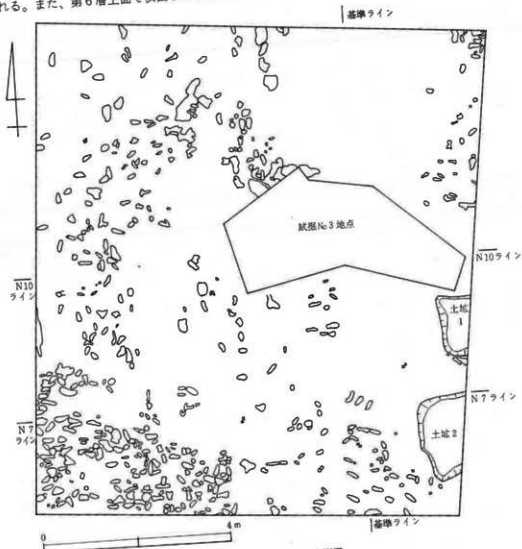
古墳時代の遺物は、第5・6層および土埴1・2内から、少量の土器を検出しているが、いずれも小破片で図化できるものはない。

第5層出土土器には、須恵器・土師器がある。須恵器には、蓋・無蓋高杯などが認められる。蓋は口縁部片と考えられる。口縁部と天井部とを分ける稜は鋭さを欠く。天井部には、左まわりのロクロによる幅広の回転ヘラケズリ調整を施す。内面はすべてヨコナデ調整で仕上げられる。無蓋高杯は杯底部の破片で、外面に左まわりのロクロによる、やや幅の狭い回転ヘラケズリ調整を加える。胎土内には、1mm前後の長石や黒色粒を含む。土師器には、高杯の脚部片がある。脚部は「ハ」字形に開き、裾で大きく屈折する。胎土内に0.5mm前後の長石・雲母・くさり礫を含み、ぶい橙色(2.5YR6/4)を呈する。脚部内面には、シボリメが残存する。このような出土遺物の特徴からみて、第5層は、5世紀末から6世紀初頭と考えられる。

第6層出土土器は、土師器のみである。土師器には、壺・高杯の口縁部や脚部片をはじめ、外面をハケメ調整し、内面にヘラケズリ調整を加えた壺体部片や体部外面に右上がりの細筋（9条/1cm）のタタキメを残し、内面を横方向にヘラケズリ調整する庄内式壺などを含む。また、胎土内に3mm程度の緑色片岩を含むものもある。このような出土遺物からみて、第6層は古墳時代前期の堆積層と考えられる。

土坑1出土土器には、須恵器・土師器がある。須恵器には、端部を丸く仕上げた杯ないしは、蓋の口縁部片がある。

土坑2からは、土師器・弥生土器の小破片を微量に検出したのみである。以上のような出土遺物の特徴や、層位関係からみて、土坑1・2の時期は6世紀中頃と考えられる。また、第6層上面で検出した足跡は、古墳時代前期から中期頃に比定できる。



第6図 古墳時代遺構実測図

弥生時代の遺構 (第7図～第13図、図版一～図版八)

弥生時代の遺構は、第8層除去段階のOP. +5.8mで検出した方形周溝墓1基がある。

方形周溝墓は、当初設定した調査地区内では、方形周溝墓の南西コーナー部分を確認したのみで、マウンドの規模を把握できなかった。そのため、調査区北側部分を東西約3m・南北約6m拡張して、マウンドの南北長を確認した。また、調査の最終段階では、調査区東壁の中央部分に東西約5mのトレンチを設定して方形周溝墓の東西の規模を確認した。その結果、当方形周溝墓は、少なくとも3度にわたる盛土流出による変形が認められるものの、現状ではN-7°-Eに主軸を置く隅丸長方形を呈し、マウンド頂部の平坦面で東西長約9.0m・南北長約14.0mを測る。

当方形周溝墓は、OP. +4.8m前後にはほぼ水平堆積する暗緑灰色(7.5GY4/1)砂層の上に築造されている。マウンドのほとんどは盛土によって形成されている。盛土層は高さ約80cmで、土質から上位10cm・中位60cm・下位10cmに大別できる。下位はオリブ黒色シルト質粘土を主体とし、マウンドの西側部分で顕著に認められる。中位の盛土は、砂まじりシルトに下位のシルト質粘土のブロックを多量に混入する。上部は、中位の盛土とほぼ同一の砂まじりシルトに多量の経礫を含んでいる。

盛土方法は、調査区北・東壁断面から観察すると、当初、予定したマウンドのベース面直上に、10cm程度のオリブ黒色シルト質粘土を水平に積み上げ整地する。次に方形周溝墓のマウンド各辺の外縁部分を、シルト質粘土のブロックを含む砂まじりシルトによって、凸状に約50cmの高さまで盛り上げる。整地後に先行して外縁部分に高く盛土することは、方形周溝墓の盛土流出に伴う崩壊を防止するためと考えられる。続いて、前工程によって生じたマウンド中央部分の凹部に凸部と同質の盛土を順次加える。また、西辺沿いでは、凸状に盛り上げた外側部分にも盛土を施す。そして、最後に第16層の細礫を多量に含む砂混じりシルトによって、マウンド全体を被覆している。

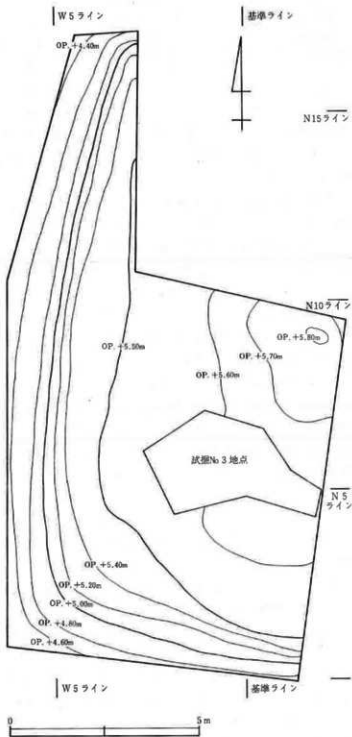
こうして盛り上げられたマウンドをコンターでたどると、盛土の最も高いOP. +5.8mは、マウンドのほぼ中央部分にあたると思われる調査区北東部分に存在する。OP. +5.8mからOP. +5.4mまでは、緩やかに傾斜し視覚的にマウンド頂部の平坦面を形成する。後述する埋葬主体部は、すべてこの範囲内におさまる。OP. +5.4mからOP. +4.7mは、マウンド傾斜面にあたる。方形周溝墓西側傾斜面での各コンターは、直線状をなしほぼ等間隔で狭い。これに対して南側斜面のコンターは、全体にやや張り出し気味に屈曲し、各コンター間の間隔も一定しない。

周溝については、マウンドの西・南側で溝幅の半分程度の範囲を精査できたのみである。周溝は、確認できた部分で盛土部分の周囲に幅0.3m以上、マウンド築造面から深さ10cm程度掘り込み、周溝底面でOP. +4.6mを測る。これに盛土高と合わせると、当方形周溝墓の高さは、外見上約0.9mとなる。

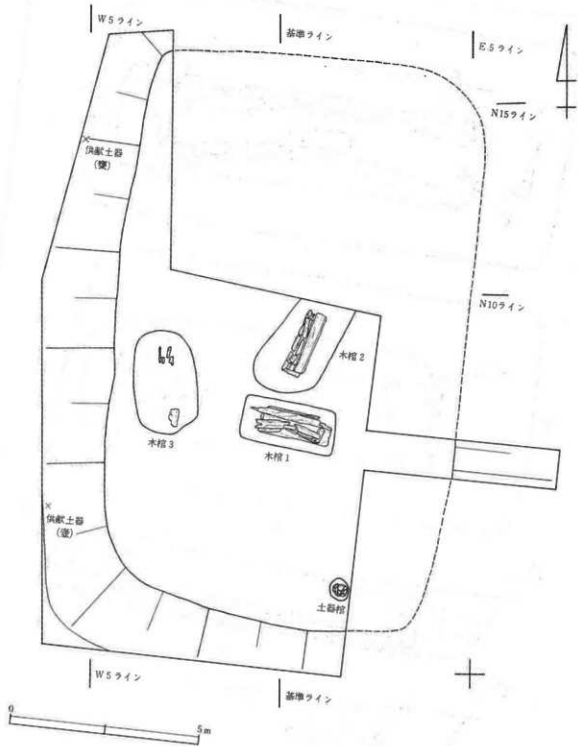
当方形周溝墓に伴う供献土器には、マウンド西側周溝から出土した壺1点・甕1点がある。

壘(2)は、ほぼ原位置を保ち、マウンド南西コーナーから北へ約3.2mのマウンド裾部分(OP.+4.6m)において、口縁部を北に向けてマウンド主軸とほぼ平行に横たえた状態で検出している。掘え置かれた際の上面にあたる器体外面部分は、風化による著しい磨滅が認められる。台付壘(4)は、マウンド北西コーナーから南に約2.5mの地点で、周溝内に堆積した第13層から出土している。壘の器表面には、煤の付着が認められる。

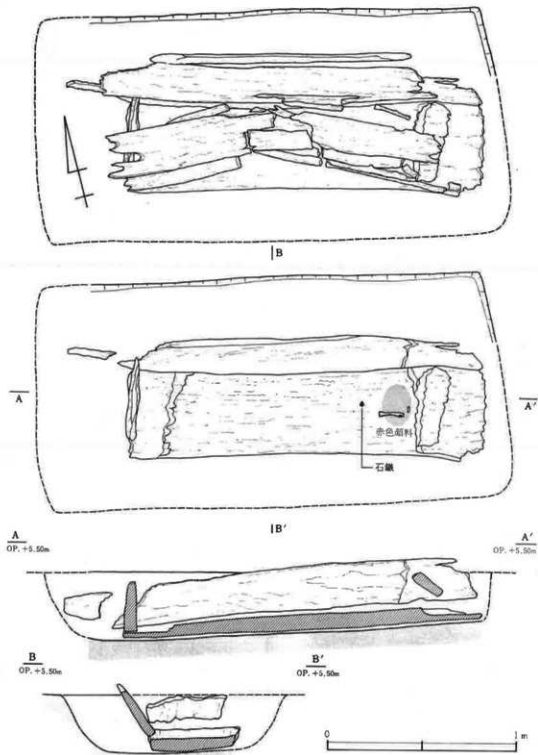
埋葬主体部は、マウンド頂部平坦面の上面では検出できなかったが、平坦面を約40cm程度掘削した段階で、3基の木棺と1基の土器棺を確認している。3基の木棺のうち1・2号木棺は良好な保存状態にあり、底板・蓋板・2枚の側板と小口板の各部材で構成される箱型の組み合せ式の構造である。1・2号木棺の各部材の材質は、第1表を参照して頂きたい。各主体部の配置は、試掘調査時点で検出した1号木棺が、マウンド平坦面の中央やや南寄りである。2号木棺は、1



第7図 方形周溝墓検出状況実測図



第6図 方形周溝墓全体図



第9圖 木棺1実測圖

号木棺の北側に約1m離れて位置し、マウンド平坦面のほぼ中央部にある。3号木棺は、1号木棺から約2m西側のマウンド西斜面寄りに占地する。1号土器棺は、マウンド平坦面の東南隅部分に存在し、1号木棺から約4.5m離れた位置にくる。埋葬順序については、各主体部に重複関係がないため把握できなかった。

1号木棺を埋置する墓址は、現存部分で東西長2.1m・南北長約35cm・深さ約30cmを測り、平面長方形、断面逆台形を呈する。墓址底面は、東から西へ傾斜し約10cmの高低差がある。墓址と木棺の主軸は、N-77°-Wで同一方位をとり、方形周溝墓の主軸にほぼ直交する。

木棺は、墓址の中央部分に取められる。木棺の各部材は、すべて残存するものの腐蝕や土圧によって、加工痕を観察することはできなかった。底板は長さ約1.9m・幅54cm・最大厚6.8cmを測る一枚板で墓址底面にそって東から西へ傾斜させて据えられる。底板の上面は、下面より3cm前後巾広い。底板の東西両端部は、側方を残して長さ30cm・幅40cm・深さ5cm程度、方形に抉り取る。

西側の小口板(A)は、幅42cm・高さ27cm・最大厚6.5cmを測り、底板端部の抉り部分に接してほぼ直立している。東側の小口板(B)は、幅43cm・高さ26cm・最大厚5.5cmを測り、底板の抉り取り部分で内傾して立っている。

北側側板(A)は、底板の上に立てられる。側板は北側に大きく傾き、上下に二分している。長さ1.96m・幅44cm・厚み5.5cmを測る。東西両側の小口板との結合を強くするため、小口板と接する部分には段状の削り込みを施す。南側側板(B)は、内側に倒れ込み底板上面で細分化している。長さ1.64m・幅29cm・厚み6cmを測る。

蓋板は長さ1.83m・幅54cm・厚み4cmを測り、南北に二分している。南側部分は、棺内に落ち込み、西側小口板・南側側板・東側小口板の上にくる。北側部分は斜めに落ち込み、東側小口板と北側側板に接する。

蓋板と南側側板除去後、底板上面で人骨の一部と壮年の臼歯1点が出土した。副葬品はない。人骨と臼歯は、底板東寄りの位置で検出しているが、遺存状態の良好なものではない。臼歯の周囲では、微量の赤色顔料を確認している。臼歯の出土位置からみて、被葬者の頭位は東側を向くものと考えられる。石鏃は、底板中央やや東寄り、被葬者の胸部にあたる位置で先端部を北へ向けて検出している。

2号木棺は、長さ3m以上・幅約1.6m・深さ約45cmを測る楕円形の墓址の中央に取められる。墓址の主軸は、マウンドの主軸から東へ18°程度ずれる。また、木棺の主軸は墓址の主軸と一致せず、約2°の差がある。2号木棺の規模は1号木棺よりやや小型である。

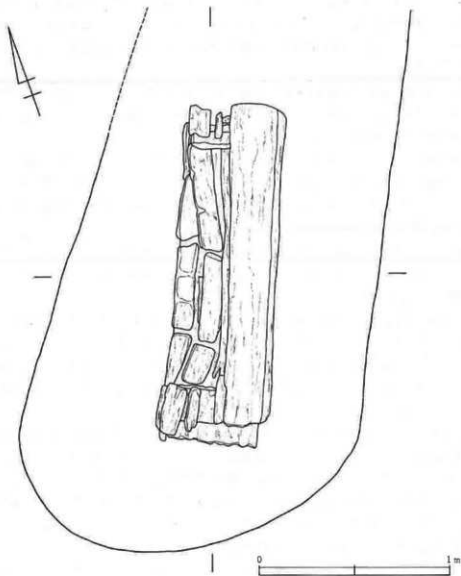
底板は、現状で長さ約1.75m・幅51cm・厚み7cmを測り、墓址底面に北から南へ傾斜させて据える。底板南北両端での高低差は約5cmである。底板の南北両端部は小口板を立てるために、長さ約25cm・幅約50cm・深さ3cm程度、側方を残して方形に削り取る。

南側小口板(A)は、高さ45.2cm・幅32cm・厚み約4.5cm残存する。南側小口板は、底板南端から約10cm内側の抉り部分で、内側に傾いて立っている。北側小口板(B)は、高さ44cm・

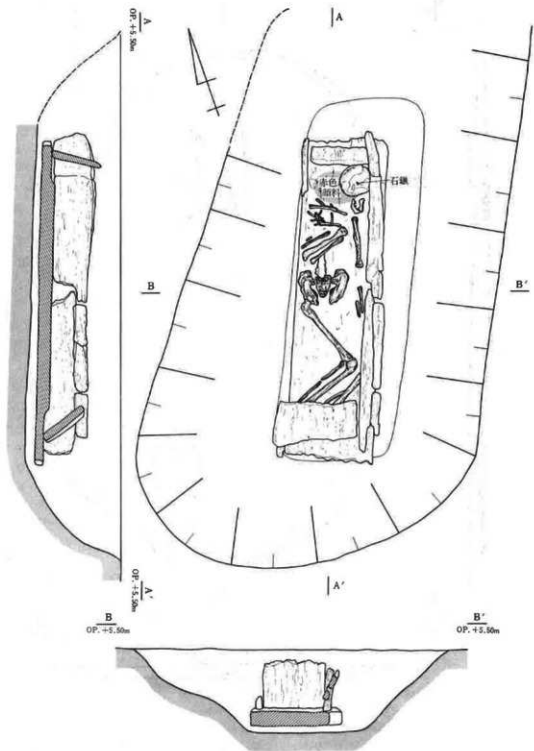
幅32.5cm・厚み約5.8cmを測る。北側小口板の検出状態は、底板北端より約5cm内側の抉り取り面の上で、兩側小口板と同様に内傾して立っている。

東側側板(A)は、長さ1.7m・幅38cm・厚さ約7cmを測る。東側側板は、上半部が著しく細分化しているものの、底板の上ではほぼ直立する。小口板との接合部分には、段状の削り取りを施す。西側側板(B)は、長さ1.24m・幅25cm・厚さ6cm程度残存する。西側側板は、内側に倒れ込み、底板上面で細分化している。東側側板に認められた段状の削り取り部分は遺存しない。

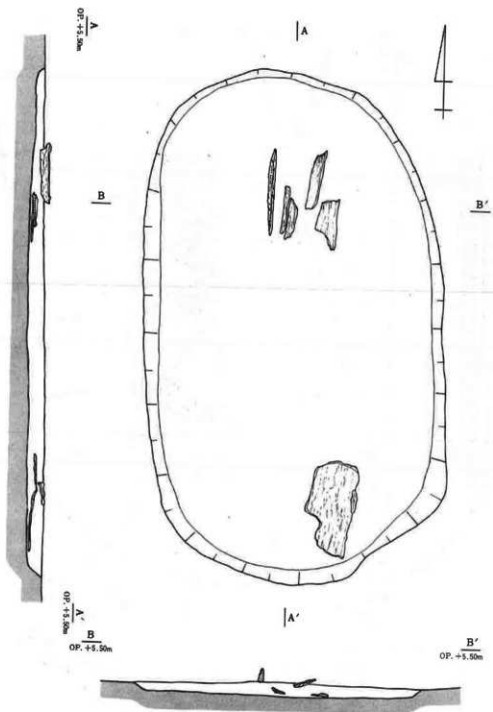
蓋板は、長さ1.73m・幅52.5cm・厚さ約5.6cmを測り、底板とほぼ同規模程度遺存する。1号木棺と同様に蓋板は、中央で東西に二分している。西側部分は細分化し、倒れ込んだ西側側板



第10図 木棺2検出状況実測図



第11圖 木棺2类測圖



第12圖 木棺3突測圖

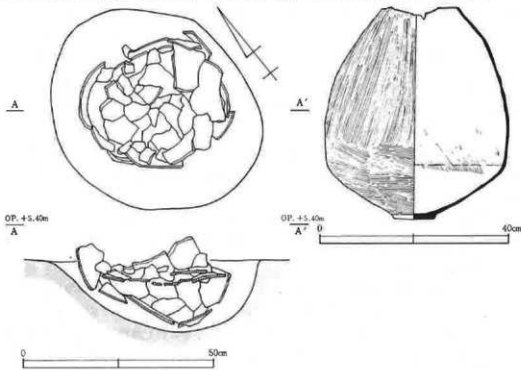
の上に折り重なる。東側半分は、東側側板に沿って斜めに落ち込み、南北両側の小口板の上にある。

棺内に落ち込んだ蓋板と西側側板の撤去後、底板上面において比較的保存状態の良い人骨と石鏝1点を検出している。他に副葬品はない。被葬者の頭位は、底板を高く据えた北側を向く。埋葬姿勢は、両膝を軽く折り曲げた仰臥屈葬の状態を呈する。また、右腕は強く折り曲げ胸部にのせる。左腕の状態は、保存状態が悪く不明。被葬者は、身長1.6m前後の20才代の男性と鑑定されている。頭骨周辺には1号木棺同様に多量の赤色顔料を検出している。石鏝は、先端部を北へ向け、頭骨に密着した状態で出土している。

3号木棺は、長径2.7m・短径1.6mの長円形を呈する墓塚に埋置される。検出できた墓塚の深さは約8cmで、1・2号木棺の墓塚に較べて極めて浅い。墓塚底面は、ほぼ水平である。墓塚の主軸は南北方向をとるが、マウンドの主軸と一致せず、約8°の差がある。

木棺は、墓塚のほぼ中央部分で、底板と東西両側板の一部と考えられる細片を残すのみで、各部材の規模や組み合わせ方法などについては不明である。墓塚内・木棺内とも、遺物や人骨は出土していない。

土器棺は、長径55cm・短径52cm・深さ20cmの平面楕円形、断面U字形を呈する掘り方の中央に、口頸部を打ち欠いた大型の壺を斜位に据えている。壺は腰の強く張る体部に、やや突出する平底の底部がつく形態で器高44.5cm・体部最大径37.8cm・底部径8.8cmを測る。胎土内に1mm前後の長石と、0.5mm以下のくさり礫・雲母・角閃石を含み、にぶい黄褐色(10YR



第13図 土器棺実測図

5/3)を呈する。器体外面は、上半部に縦方向の丁寧なヘラミガキ調整を施した後、下半部にも横方向のヘラミガキ調整を加える。内面は、ハケメ調整後にナデ調整を加え仕上げる。

弥生時代の遺物 (第14・15区、図版十六2、十七)

弥生時代の遺物は、方形周溝墓に伴って出土しているほか、第5層から第8層にも混入した状態で少量認められる。

方形周溝墓に伴う遺物は、盛土内・墓坑内・木棺内・マウンド斜面から周溝内より検出している。盛土内出土遺物には、磨滅した壺・甕・鉢などの弥生土器や叩石・サヌカイト片などがある。各墓坑内からは、微量の弥生土器を含むのみで図化できる遺物はない。1・2号木棺内からは石鏃・人骨・歯などを検出している。西側周溝からマウンド西側斜面では、供献されたと考えられる弥生土器(壺・甕)各1個体を確認している。以下、図化できたものについて記述してゆく。

(1)は、口径24.5cmを測る壺で、胎土内に0.5~1mmの長石・くさり礫と、0.5mm以下の雲母粒などを含み、にぶい橙色(7.5Y R7/4)を呈する。口縁部は上方に向かって立ち、端部を内側に肥厚させる。口縁部外面には、左上がりのハケメ調整後、ヨコナデ調整を加える。頸部外面は、縦方向のハケメ調整(14条/1cm)後、横方向のハケメ調整(8条/1cm)で仕上げる。頸部内面には、横方向のハケメ調整(8条/1cm)を施す。マウンド内出土。

(2)は、西側周溝の底面から出土した壺で、胎土内に0.5mm程度の角閃石・長石・くさり礫などを含み、にぶい黄褐色(10Y R5/3)を呈する。形態の特徴として、口縁部は斜め下方に短く折れ曲がり、漏斗状に大きく開く頸部につづく。器体は腰部に強い張りを持ち、やや突出した平底の底部がつく。口径27.4cm・器高45.3cm・最大径27.8cm・底径7.2cmを測る。口縁部端面には、密な簾状文を左まわりに施す。また、口縁部内面には、4個1組の円形浮文を4方向に貼り付ける。口頸部に認められる5帯の簾状文のうち、上方の2帯はやや粗雑で左まわりに施文され、下3帯の簾状文は左まわりに密に施す。体部には、3帯の櫛状直線文と2帯の簾状文を加える。さらに、最上段の櫛状直線文の施文後には2個1組の円形浮文を1ヶ所に貼り付ける。2帯の簾状文は、密で左まわりに加えらる。調整法については、口縁部内外面はヨコナデ調整で仕上げる。器体外面の調整は、口頸部から器体上半部をナデ調整で、体部下半部を横方向のヘラミガキ調整する。内面の調整は、口頸部から体部上半部をナデ調整で、下半部をやや左上がりのハケメ調整(6条/1cm)で仕上げる。

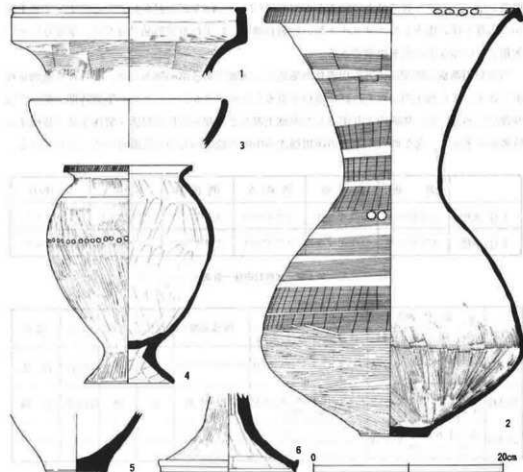
(3)は、マウンド内から検出した口径21cmの鉢である。胎土内に1mm程度の長石・石英粒などを多量に含む。口縁部は丸くおさめる。器壁は全体にやや厚い。内外面とも著しい磨滅のため調整法は不明である。

(4)は、口径13.4cm・器高23cmを測る甕で、周溝内から西側マウンド斜面に堆積した第13層から検出した。胎土内に0.5mm以下のくさり礫や長石を多量に含む。にぶい黄橙色(10Y R7/4)を呈する。形態的な特徴として、口縁部は「く」字形に短く外反し、端部に面を持つ。体部は器体の上位に張りを持ち、倒卵形を呈する。底部には、「ハ」字形に開く低い脚台がつく。施文法についてみると、口縁部には、櫛状工具による刻み目を密に施す。また、体部最

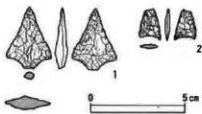
大径の位置には、棒状工具による円形の刺突文を巡らす。体部外面の調整は、左上がりのハケメ調整（7条/1cm）後、体部最大径以下の部位を縦方向のヘラミガキ調整する。体部内面はハケメ調整（7条/1cm）後、丁寧なナデ調整を加える。脚台部と器体とは、円板充填法によって結合されている。脚台部外面は縦方向のヘラミガキ調整し、内面は横方向のヘラケズリ調整で仕上げる。体部上半から最大径部分には、全周にわたり、煤の付着が認められるものの、体部下半から脚台部には、まったく付着していない。

（5）は、底径6.4cmを測る平底の底部片である。胎土内に1mm前後の長石・石英粒などを含み、橙色（7.5Y R6/6）を呈する。内外面および底面は、ナデ調整で仕上げられる。マウンド内出土。

（6）は、胎土内に1mm前後の長石・石英と0.5mm程度の微細な雲母粒を含み、灰黄色（2.5 Y7/2）を呈する径14cmの脚部片である。脚部は中空の柱状部から緩やかに裾部へ広がり、脚端部で上下に肥厚し、広い面をもつ。脚部外面には、縦方向にヘラミガキ調整を施し、内面は柱状部にシボリメを残し、裾部を横方向にヘラケズリ調整する。マウンド内出土。全体に著しく磨滅する。



第14図 弥生土器実測図



第15図 石鏃実測図

このほかに、櫛描直線文を施した壺体部片や、壺底部片などがマウンド内から出土している。

(15図-1)は、1号木棺内出土の凸基有基式の石鏃である。基端部が欠損するものの、現状で長さ3.2cm・最大幅2.4cm・厚さ0.7cm・重量3.0gを測る。両面とも細かい剥離調整を施し、断面菱形を呈する。石材はサヌカイトである。(15図-2)は、2号木棺から出土したサ

ヌカイト製の石鏃である。先端部が欠損するものの、現状で長さ1.7cm・最大幅1.2cm・厚さ0.3cm・重量0.5gを測る平基無基式である。両面に剥離調整を施し、断面菱形を呈する。

以上のような本調査で出土した弥生時代の遺物についてまとめてみると、出土遺物は、少量の弥生土器・石鏃などで弥生時代中期に限定できる。このうち、方形周溝墓に伴う供献土器には、壺・甕各1点を検出している。土器には、土器棺に使用されていた壺や西側周溝底面から出土した壺(2)などのように、所謂「河内の土器」の胎土、色調の特徴をもつものと、にぶい橙色を呈し、くさり礫の目立つ胎土をもつもの(1)・(4)などが混在している。1・2号木棺から人骨と伴に出土したサヌカイト製の打製石鏃は、いずれも完形品ではなく、基部分などが欠損しているなどの点を指摘できる。

当方形周溝墓の時期は、方形周溝墓の築造ベース面である第80層からは、まったく遺物を検出できず、また盛土内からも良好な資料を得ることができなかったため、築造時期に関しては明確にしがたいが、周溝内より出土した供献土器などに認められる形態・製作手法・裝飾法の特徴から考えて、弥生時代中期畿内第Ⅲ様式の中頃の段階のものと位置付けることができる。

	蓋板	底板	側板A	側板B	小口板A	小口板B
1号木棺	コウヤマキ	コウヤマキ	コウヤマキ	コウヤマキ	コウヤマキ	コウヤマキ
2号木棺	コウヤマキ	コウヤマキ	コウヤマキ	コウヤマキ	コウヤマキ	コウヤマキ

第1表 木棺材樹種一覧表

	墓 址			木 棺				埋葬姿勢	頭位	性別	年齢	備考	
	長	幅	深	主軸	長	幅	高						主軸
1号木棺	2.1 m	35 cm 以上	30 cm	N-77°W	1.9 m	54 cm	44 cm	N-77°W	——	東	——	壮年	石 鏃
2号木棺	3m 以上	1.6 m	45 cm	N-25°E	1.75 m	51 cm	38 cm	N-23°E	仰臥屈葬	北	男	20才代	石 鏃
3号木棺	2.7 m	1.6 m	8 cm	N-1°W	——	——	——	——	——	——	——	——	——

第2表 木棺一覧表

4. まとめ

今回の調査では、当初から木棺を伴う遺構の存在が予想され、その確認が調査目的の1つであった。調査の結果、古墳時代の足跡群のほか、OP、+5.8m前後で弥生時代中期の方形周溝墓1基を検出した。

調査地点は、長瀬川と平野川の自然堤防に挟まれた三角州性低地に立地し、久宝寺遺跡の推定範囲内の南西端部分で加美遺跡の推定範囲と接する位置にあたる。加美遺跡でも本例とほぼ同時期の方形周溝墓を検出していることから、自然堤防に囲まれた低い部分は、墓域を形成していたものと考えられる。

確認した弥生時代中期中頃の方形周溝墓は、主軸を南北におく隅丸長方形を呈し、マウンド頂部平坦面で南北長14.0m、東西長9.0m、高さ0.9mで、盛土量約140m³と推定される。埋葬主体部は、マウンド頂部の平坦面で木棺3基、土器棺1基を検出しているものの、マウンド北半分の未調査部分を考慮すると、さらに多数の埋葬主体の存在を予想できる。良好な遺存状態にあった2基の木棺の構造は、底板の両短辺に「コ」字形に挟り取りを施して小口板を立て、さらに側板を底板の上のせ、小口板との接合部に段をつくって結合するものである。埋葬姿勢は屈葬で、頭位を北または東へ向ける。木棺内からは、打製石鏃を検出したのみで、他の副葬品は伴わない。

次に、上述してきたような方形周溝墓の特色を、多数の方形周溝墓を確認している遺跡の例と比較してみたい。中期初頭の山賀遺跡例では、一辺4～5mの長方形を呈し、マウンド頂部に単独の埋葬主体部がある。埋葬主体部に木棺を用い、土器棺は認められない。遺体の姿勢は頭位を東または、南へ向けた屈葬である。中期中頃から後半にあたる瓜生堂遺跡・巨摩庵寺遺跡・加美遺跡などでは、長方形プランを呈し、一辺10mを超える大規模なものが増加する。マウンドの主軸は、原則として南北方向に向く。埋葬主体部は、マウンド頂部平坦面に複数の木棺・土器棺・土埴墓などがあるほか、周溝内にも認められる。埋葬姿勢には、頭位を東または北に向けた屈葬と伸展葬のものがある。

このように、マウンドの形態・規模、主体部の種類・数、埋葬姿勢、頭位などの点で、中期初頭の山賀遺跡例とは、著しく様相の異なることを指摘できる。また、中期中頃の同時期の周溝遺跡とは、類似する点を多く含み、大きな差異は見い出せない。

1・2号木棺の組み合わせ方は、福永氏の木棺型式分類でII型に該当する⁽²¹⁾。II型の場合、小口板を立てる際に、底板の短辺側に溝状の掘り込みを施すものが多いが、本例では、底板短辺の両端の側方部分を残して、「コ」字形に挟り取って加工している。類例は、瓜生堂遺跡第2号方形周溝墓4号木棺、巨摩庵寺遺跡8号周溝墓の木棺に認められるにすぎない。

木棺内から石鏃の出土する例は、中期の諸遺跡に散見される。被葬者は、成人男性の場合がほとんどを占める。

古墳時代の遺構は、土坑2基、足跡群を検出しているものの、出土遺物も極めて少量で性格等を明確にしがたい。今後、本調査地区周辺での調査が望まれる。

- 注
- (1) 大阪文化財センター 『久宝寺遺跡現地説明会資料(I)(II)(III)』 1982年・1983年
 - (2) 高島敬・尾谷雅彦他 『亀井・城山 財)大阪文化財センター』 1980年
 - (3) 東大阪市遺跡保護調査会 『東大阪遺跡ガイド』 1978年
 - (4) 東大阪市文化財協会 『麩る河内の歴史』 1984年
 - (5) 田代克巳・曾我恭子他 『思智遺跡I』 瓜生堂遺跡調査会 1980年
 - (6) 中尾芳治他 『森の宮遺跡 第3・4次発掘調査報告書』 難波宮址顕彰会 1980年
 - (7) 中西清人他 『新家遺跡その2・その3』 財)大阪文化財センター 1984年
 - (8) 西口隆一・上西美生子他 『山賀その3』 財)大阪文化財センター 1984年
 - (9) 渡辺昌宏・井藤暁子他 『美園』 財)大阪文化財センター 1985年
 - (10) 家根祥多他 『長原遺跡II』 財)大阪市文化財協会
 - (11) 中井貞夫・尾上実他 『若江北』 財)大阪文化財センター 1983年
 - (12) 亀島重則・阪田育功他 『友井東(その1)』 財)大阪文化財センター 1984年
 - (13) 田代克巳他 『瓜生堂遺跡III』 瓜生堂遺跡調査会 1981年
 - (14) 玉井功他 『巨摩・瓜生堂』 財)大阪文化財センター 1982年
 - (15) 畑江門也他 『瓜生堂』 財)大阪文化財センター 1980年
 - (16) 中西清人・宮崎幸史他 『亀井遺跡』 財)大阪文化財センター 1982年
 - (17) 大阪市文化財協会 『加美遺跡現地説明会資料』 1985年
 - (18) 米田敏幸 『八尾南遺跡 大阪市高速電気軌道2号線建設に伴う発掘調査報告書』 八尾南遺跡調査会 1981年
 - (19) 棚橋利光 『八尾・柏原の歴史』 大阪市史双書1 松籟社 1981年
 - (20) 本来は、溝状の掘り込みがあったとも考えられる。
 - (21) 福永伸哉 『弥生時代の木棺墓と社会』 『考古学研究』 第32巻第1号 1985年

圖 版



1. 古墳時代遺構全景



2. 弥生時代方形周溝墓検出状況



1. 西側周溝断面



2. 供獻土器出土狀況



3. 供獻土器出土狀況



1. 方形周溝墓全景（南より）



2. 方形周溝墓全景（南西より）



1. 木棺1検出状況（東より）



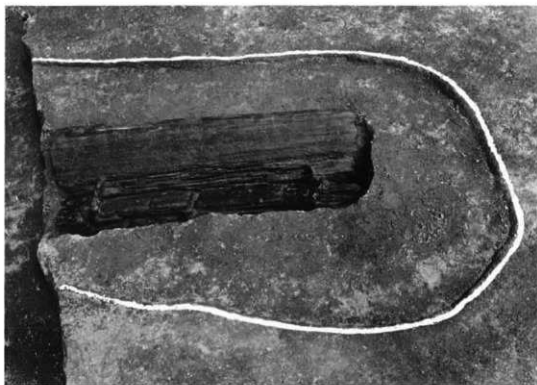
2. 木棺1検出状況（蓋板除去後、南より）



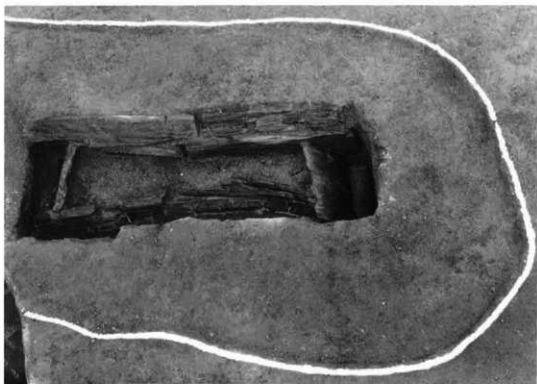
1. 木棺1底板検出状況（南より）



2. 木棺1墓壇立割状況（東より）



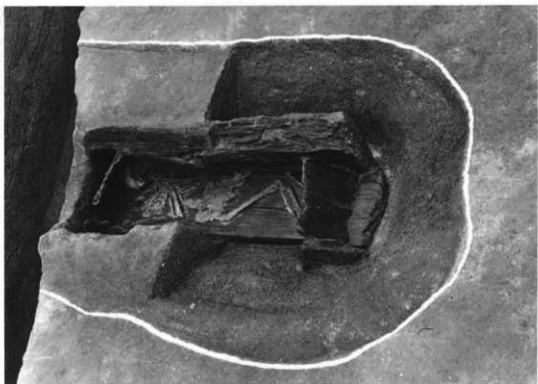
1. 木棺2 検出状況 (西より)



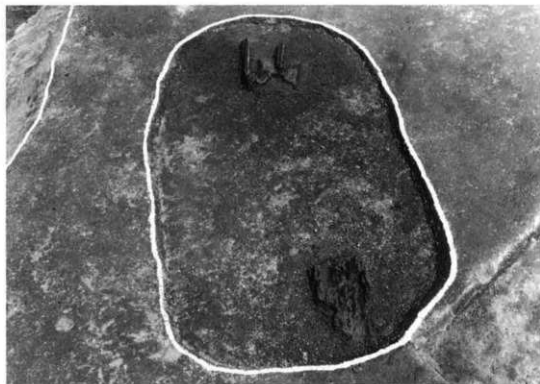
2. 木棺2 検出状況 (蓋板除去後、西より)



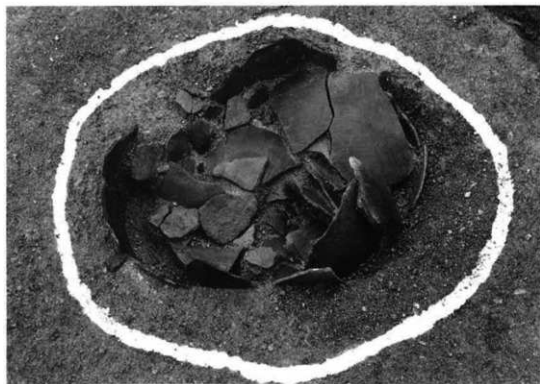
1. 木棺2人骨検出状況(西より)



2. 木棺2人骨立割状況(南より)



1. 木棺3検出状況(南より)



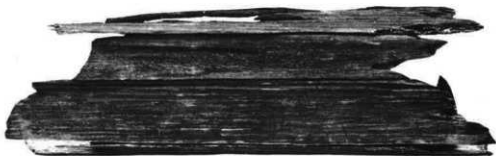
2. 土器棺検出状況(南より)



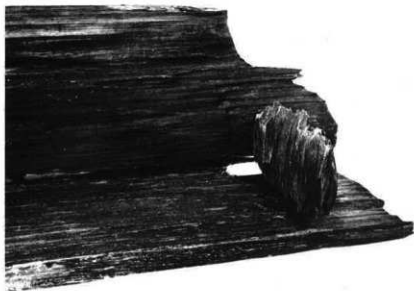
1. 木棺1の展開(内面)



1. 木棺1 組み合せ状況



2. 木棺1 組み合せ状況



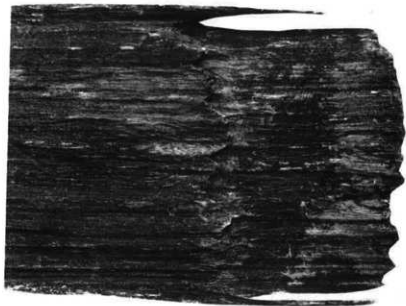
1. 木棺1組み合せ部分（東側）



2. 木棺1組み合せ部分（西側）



1. 木棺1 底板挟り部分 (西側)



2. 木棺1 底板挟り部分 (西側)



木棺 2 の展開 (内面)



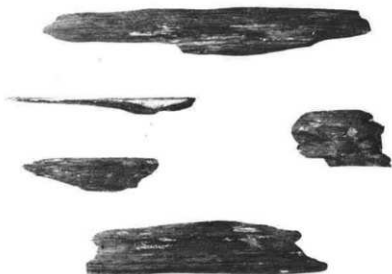
1. 木箱 2 組み合せ部分 (南側)



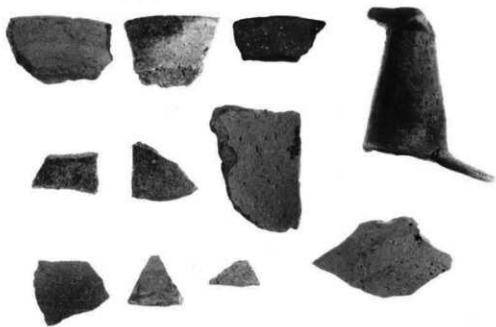
2. 木箱 2 底板缺り部分 (南側)



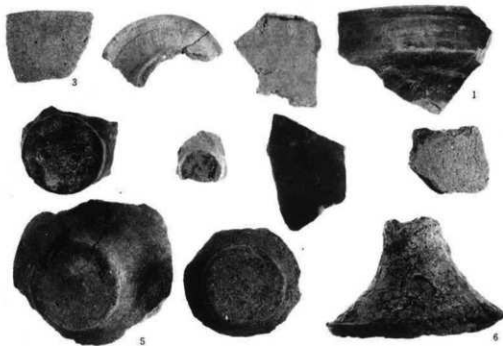
1. 木棺 2 底板挟り部分 (北側)



2. 木棺 3 の展開



1. 古墳時代出土土器



2. 弥生時代出土土器



4



2

1



2



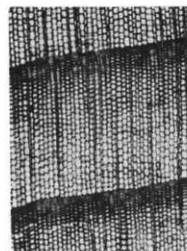
1. コウヤマキ C-30X
(木棺1、蓋)



R-200X



T-50X



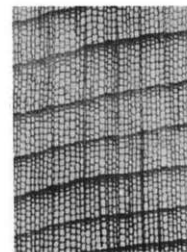
2. コウヤマキ C-30X
(木棺1 小口板A)



R-200X



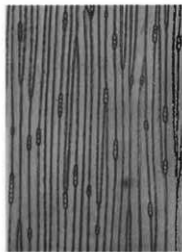
T-50X



3. コウヤマキ C-30X
(木棺1、底板)



R-200X



T-50X

Cは木口、Rは径目、Tは板目を示し、後の数字は写真倍率を示す。

久宝寺遺跡発掘調査報告

—久宝寺緑地公園内雨水貯溜池築造工事に伴う発掘調査—

昭和61年11月

発行 財団法人 東大阪市文化財協会

印刷 (株)中島弘文堂印刷所